

区分：基準○、意向×

紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

1 基本情報

医療機関名	医療法人財団明理会行徳総合病院
所在地	市川市本行徳5525-2

2 紹介受診重点医療機関とならない理由

今回、基準は満たしておりますが、当院として紹介受診重点医療機関の意向は辞退させていただきます。理由としましては、以下でございます。

当院は許可病床数307床の地域に密着した二次救急医療機関として、東葛南部医療圏（市川・浦安・船橋エリア中心）で長きに渡り診療を展開してきました。その際、選定療養費を現在の¥2,750から¥7,000に増額することで、地域の患者様が当院に受診する上での敷居が高くなってしまい、受診控えに繋がってしまうことが懸念されます。引き続き地域に密着した医療を展開していく上で、選定療養費の大きな金額負担は避けたいと考えます。

しかしながら、今後の診療機能体制（病診連携）を促進していくにあたり、将来的に紹介受診重点医療機関として確立していかなければならないことも理解しておりますが、今の状況では時期尚早と判断しました。

現在の当院の診療機能体制と選定療養費を理由に見送りさせていただきますので、宜しくお願い致します。

（参考：貴院からの報告値）

区分	医療資源を重点的に活用する外来（紹介受診重点外来）の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	40.3%	29.5%	27.9%	21%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来※	538日/18,341日	7,786日/95,627日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	5,760日/18,341日	21,890日/95,627日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	3,183日/18,341日	1,481日/95,627日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考基準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。

区分：基準○、意向×

紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

1 基本情報

医療機関名	医療法人社団瑞鶴会鶴木クリニック医科・歯科
所在地	市川市八幡1-19-13

2 紹介受診重点医療機関とならない理由

今回、基準は満たしておりますが、当クリニックとして紹介受診重点医療機関の意向は辞退させて頂きたいと思っております。理由は以下の通りです。

当クリニックの診療内容は、顎変形症の外科的な治療に特化していることから、特には地域医療に注力しておらず、今回事業での紹介受診の割合が相対的に高いとはいえ、それらの患者さんは、日本全国の関連する医療機関・歯科医療機関さまざまからのご紹介によって来院された方々です。その上で当クリニックでの診療の様相を鑑みますと、地域医療での医療提供体制の整備を目的とした今回の事業においては該当しないものと判断いたしました。とはいえ、地域医療のさらなる充実が我が国の喫緊の課題であることは重々承知しておりますので、当クリニックで可能なことにつきましては、ご協力させて頂きたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(参考：貴院からの報告値)

区分	医療資源を重点的に活用する外来 (紹介受診重点外来)の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	93.8%	34.9%	0%	0%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来※	36日/65日	83日/298日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	60日/65日	30日/298日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	47日/65日	24日/298日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考基準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。

紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

1 基本情報

医療機関名	独立行政法人地域医療機能推進機構船橋中央病院
所在地	船橋市海神6-13-10

2 紹介受診重点外来に関する基準を満たす蓋然性等

(1) 今後基準を満たす蓋然性

※報告では基準を満たしていないものの、今後満たす見込みや理由について御記載ください。

○再診割合について

当院では厚生労働省が掲げる「かかりつけ医・2人主治医制」を推進している。状態の安定した患者さんを積極的に逆紹介する事により、専門的医療を要さない外来患者さんの数を減少させる。また、外来患者数を減少させることにより医師の外来勤務負担を軽減させ、入院機能強化に繋げる。これにより、良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を構築でき、今後重点外来医療を活用する患者さんを増加させることで基準を満たすことが期待できる。

○紹介率

逆紹介推進で外来患者数を減少させることにより紹介患者さんを多く受け入れる余裕ができ、紹介率向上につながり基準を満たすことが期待できる。

(2) 基準を満たすことが予想される時期やスケジュール（見込）

※基準を満たすことが見込まれる時期やそのための取り組みやスケジュールについて御記載ください。

○再診割合について

令和4年度4月より「かかりつけ医・2人主治医制」の推進をおこなっており一定の成果が得られたが、認定後はさらに推進させる。また、認定により「かかりつけ医・2人主治医制」に対する患者さんの理解が得られやすくなり、スムーズな逆紹介に繋がることを期待される。

○紹介率について

現在のところ「かかりつけ医・2人主治医制」の推進が紹介率の上昇に大きく寄与しているとは言えないが、今後院内周知を徹底するとともに地域の医療機関への訪問活動を行い、連携強化に取り組む予定である。

*紹介率算出月の令和4年7月は新型コロナウイルス感染症の大流行時期であり、発熱外来に紹介状を持参しない初診患者さんが多数おられたため紹介率は大きく減少しました。

(参考値：令和3年度 平均紹介率42.3%・令和4年度 平均紹介率36.5%)

区分：基準△・×、意向○

(3) 現時点で基準を満たしていないものの、意向を示す理由

※厚生労働省が示す次の3類型に関連付けて、貴院の外来医療の実施状況等について御説明ください。

① 医療資源を重点的に活用する入院前後の外来（例 悪性腫瘍手術前後の外来）

下記の受け入れ体制からの入院前後の外来活用

- ・千葉県地域周産期母子医療センター、輪番制二次救急医療機関、10科目による入院受け入れ体制（特殊科目：血液内科・新生児科）
- ・急性期医療機関として令和4年度は新規入院患者5,925名、救急搬送受け入れ件数2,363件、全身麻酔手術件数1,284件の実績を有する。
- ・現在、常勤麻酔科医4名を中心に、周産期母子医療センターでは24時間手術が可能な体制をとっている。

② 高額等の医療機器・設備を必要とする外来（例 外来放射線治療）

- ・外来腫瘍化学療法診療料1の届け出を行い、令和4年度は824件の外来化学療法を行った。
- ・放射線科を標榜し、常勤医師1名を配置している。CT装置2台、MRI装置1台、SPECT装置1台を有し、他の医療機関からの依頼にも対応している。

③ 特定の領域に特化した機能を有する外来（例 紹介患者に対する外来）

- ・患者サポートセンター（地域連携室部門による外来予約）を設置し、地域の医療機関とのスムーズな連携体制を構築している。
- ・特化した外来診療科目：産科・新生児科・血液内科・小児外科・消化器内科と外科の連携体制（内視鏡センター、消化器病センター）・歯科口腔外科

(参考：貴院からの報告値)

区分	医療資源を重点的に活用する外来（紹介受診重点外来）の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	44.1%	21.8%	27.1%	44.5%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来*	471日/8,781日	9,775日/115,428日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	2,066日/8,781日	15,662日/115,428日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	2,412日/8,781日	2,144日/115,428日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考水準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。

区分：基準△・×、意向○

紹介受診重点医療機関に係る意向調査票

1 基本情報

医療機関名	順天堂大学医学部附属浦安病院
所在地	浦安市富岡2-1-1

2 紹介受診重点外来に関する基準を満たす蓋然性等

(1) 今後基準を満たす蓋然性

※報告では基準を満たしていないものの、今後満たす見込みや理由について御記載ください。

紹介受診重点外来の再診の割合が基準値を満たしていないが、2021年10月に地域医療支援病院の指定を受け、積極的に地域医療機関との連携を強化し、紹介・逆紹介を推進することで、紹介初診患者を増やしている。2022年5月からは、症状・状態の落ち着いている再診患者に対し、リフィル処方を導入すると共に逆紹介の更なる推進を図っている。

2021年7月に膠原病・リウマチセンター、2023年4月にフットケアセンター、からだ機能検査センターを開設するなど、複数科による専門医療・チーム医療を推進し、高度な医療を提供している。

また、外来改修工事が進行中であり、外来手術室や陰圧室の新設、からだ機能検査センター開設による生理機能検査の充実など外来機能が向上した。更には、MRI装置や放射線治療装置など最新医療機器の導入計画が決定しており、随時、更新される予定である。

(2) 基準を満たすことが予想される時期やスケジュール（見込）

※基準を満たすことが見込まれる時期やそのための取り組みやスケジュールについて御記載ください。

2023年度は、フットケアセンターの開設、外来科学療法室の増床、白内障患者（合併症なし）の外来手術、MRI装置の更新などが実施・計画されており、2024年度には、血液浄化センターの増床なども計画されており、基準を満たすことが出来ると考えている。

区分：基準△・×、意向○

(3) 現時点で基準を満たしていないものの、意向を示す理由

※厚生労働省が示す次の3類型に関連付けて、貴院の外来医療の実施状況等について御説明ください。

① 医療資源を重点的に活用する入院前後の外来（例 悪性腫瘍手術前後の外来）
 ② 高額等の医療機器・設備を必要とする外来（例 外来放射線治療）
 ③ 特定の領域に特化した機能を有する外来（例 紹介患者に対する外来）

外来化学療法室の増床（17床→23床）＊2023年度
 血液浄化センターの増床（15床→18床）＊2024年度
 MRI装置の更新 ＊2023年度
 放射線治療装置の更新 ＊2024年度
 フットケアセンターの開設 ＊2023年4月（済）
 からだ機能検査センターの開設 ＊2023年4月（済）
 白内障患者（合併症なし）の外来手術実施 ＊2023年度

(参考：順天堂大学浦安病院からの報告値)

区分	医療資源を重点的に活用する外来 (紹介受診重点外来)の割合		紹介率	逆紹介率
	初診	再診		
報告値	59%	21.9%	60.8%	62.7%
医療資源を重点的に活用する入院前後の外来※	1,840日/15,612日	38,687日/445,917日	—	—
高額等の医療機器・設備を必要とする外来	7,021日/15,612日	60,602日/445,917日	—	—
特定の領域に特化した機能を有する外来	11,818日/15,612日	9,076日/445,917日	—	—
基準値	40%以上	25%以上	50%以上	40%以上

基準

参考水準

※「医療資源を重点的に活用する入院の前後の外来」のうち、複数の外来を受診しており、且つ受診日が異なる場合は、重複して計上している。